

東浦 尚美

高 59 期

吉本興業・マネージャー



創立 100 周年、おめでとうございます！

登美丘高校は私にとって、やりたい事とことんやらせてくれる、そんな学校でした。

私が所属していたソフトボール部はとにかく仲が良く面白いことが大好き、そんな集団でしたが、新入生を対象にした部活紹介で「コントをしたいから照明を使ってみよう」と先生に相談したところ「すべて自分たちでやるなら好きなだけやって良いよ」と、機材の使い方を色々教えてもらい、持ち時間 5～10 分ほどで、実践や部員紹介をしていく部活がほとんどだったにも関わらず、照明や音響を駆使したコントを披露したことを覚えています。3 年生で生徒会副会長を務めさせていただいた時は、学校祭での横断幕を「遠くから見てもインパクトがあるように例年の倍の大きさのものを作りたい！」「正門アーチもとにかくデカイものを作りたい！」と、今思えば無茶なアイデアに対しても、どうすれば実現できるのかを先生たちが一緒に考えてくれ、毎日毎日みんなと遅くまで作業して、イメージ通りのものが完成したときの感動は今でも忘れられません。部室棟の使い方に疑問を感じた時も、先生に相談してみると「職員会議に提案資料を出して承認を得てから、各部活に説明に行き納得してもらえたら変更してよい」と、実行するための手順と方法を教えてもらい、いろんな先生の手助けをもらいながら、部室棟の大幅な模様替えを行ったりもしました。こうして挙げていくとキリがないのですが、私が大好きだった登美丘の学校祭や部活に熱く、何事にも一生懸命な雰囲気は、こうした生徒のやりたいという気持ちや、そう思って行動したことを尊重し、納得いくまでとことんやらせてくれる、先生たちのおかげだったのだと感じます。

今私は吉本興業でマネージャーという仕事をしていますが、当時先生からもらった言葉で、今でも大切にしている言葉があります。「“何を”言うかではなく“誰が”言うか。あなたが言うから協力したい、と思わせる人になりなさい。」なにか自分が行動するときに「あなたが言うなら」と周りに思ってもらえる人間になるべきだと学びました。今仕事をする上でも、全てはこれに通ずると感じています。悩む時も多くありますが、この言葉を思い出し、そう思われる人になるべく日々奮闘しています。

今回このような機会をいただき、素敵な友達や先生と出会えて、登美丘高校で過ごした 3 年間は、今の自分にとって本当に重要だったなと改めて感じる事が出来ました。皆さんも、やりたいことはとことん実行し、思う存分楽しんで高校生活を過ごしてほしいです。そんな素敵な登美丘高校がこの先もずっと続きますように。

■プロフィール

2011 年 3 月 登美丘高校 卒業

2015 年 3 月 関西大学 総合情報学部 卒業

2015 年 4 月 吉本興業 入社